

令和5年3月3日

保護者 様

糸魚川市立西海小学校
校 長 水澤 哲

学校評価（後期）の結果及び今後の取組について

浅春の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃より、当校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、先日開催された学校運営協議会において学校評価の結果についてご審議いただきました。また、「西海の未来と次代を担う西海の子を育む」について熟議も行いました。

次年度に向けた取組等について、下記のとおり保護者の皆様へお伝えいたします。

記

1 学校評価の結果及び今後の取組、次年度に向けて

結果及び取組の詳細については「2 学期学校評価の結果について」をご参照ください。

学校では、次年度に向け、異学年交流を軸に、他者との温かな関係の中で子どもを育てる仕組みを構築していきます。また、教育活動の大きな指針として毎年作成しているグランドデザインに子どもの考えを反映させるため、5年生と6年生がそれぞれ校長と1時間ずつ授業を行い、「来年度の西海小学校にどうあってほしいか、どうしていきたいか」について考えを出し合いました。子どもたちの様々な考えをまとめると、およそ次のようになりました。

- ・ 5年生「学年関係なく、誰とでも力を合わせたり、競い合ったりできる学校にしたい。」
- ・ 6年生「いつでも、さわやかな笑顔で挨拶や返事を交わす学校であってほしい。」

自分が経験してきた事や自身のありたい姿が表れているように感じます。子どもを真ん中に据えて考え、「将来によき大人となる子ども」を育むように改善と継続に努めます。

2 学校運営協議会（2月20日）

前述の子どもの思いを共有し、「西海の未来と次代を担う西海の子を育む」をテーマにグループワークを行い、考えを交流しました。およそ次のような意見が出されました。

- ・ 地域の大人が子どもと名前呼び合える関係になりたい。
- ・ 大人同士がもっとかわりあえる活気ある地域になりたい。
- ・ 学校と地域が連携して、楽しいことができるか探りたい。

子どもを取り巻く大人（学校と保護者、地域）が手を携え、子どもの健全育成に努めましょう。

3 その他

この度配付した資料のカラー版を学校のホームページに掲載します。そちらも併せてご覧ください。（右の二次元コードを読み取ってください）



◇令和4年度 2 学期 学校評価の結果について（12 月実施）

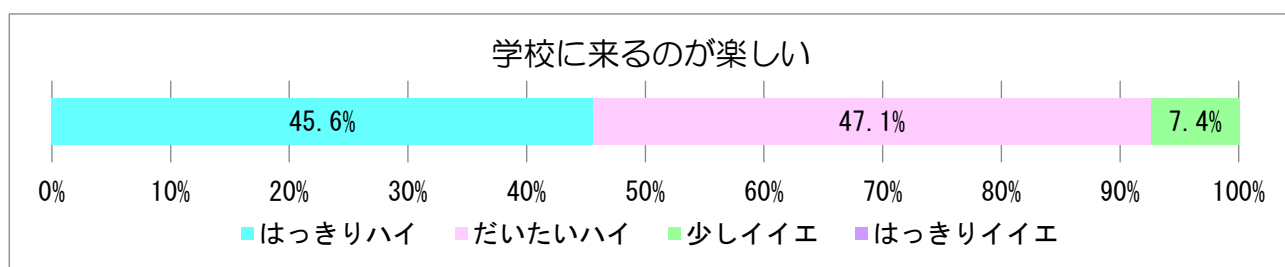
1 児童アンケートから

12 月に実施した児童アンケート（児童が自分で振り返る学校評価）です。回答のアとイを合わせた（“はっきりハイ”と“だいたいハイ”の結果を足した）数を『肯定的評価』としています。児童評価ではいじめや家庭学習などを中心とした糸魚川市の共通評価項目を中心に掲載しました。グラフの数値は回答した児童の割合（％）です。



（1 学期末学校評価まとめと同様です。グラフ内の割合は四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。）

質問 「学校に来るのは楽しいですか。」



肯定的評価は 92.7%（1 学期比+0.3%）

多くの児童が、1 学期同様、楽しく安心して学校生活を送ることができていると考えます。しかし、あまり楽しくないと答える子どもが数名います。これらの児童については、悩みを聞いたりして、必要な対応を行いました。

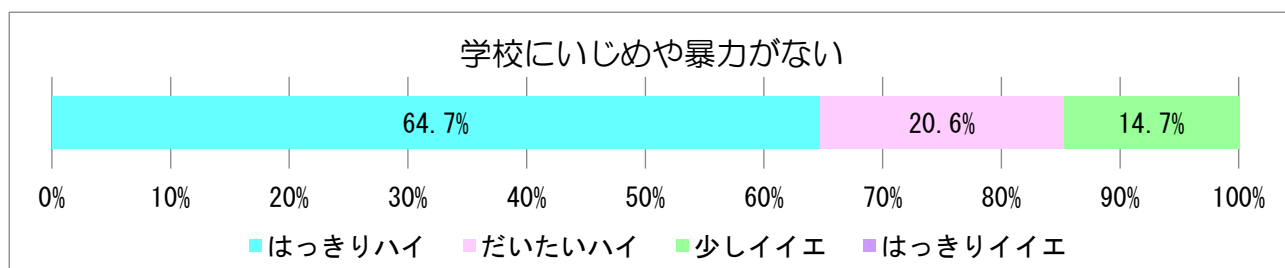
学校や学級に慣れて互いに遠慮せずに物事を言い合ったり、理想の自分と現実の自分のギャップを自覚したりするようになる 2 学期は、1 学期に比べ、この項目の肯定的評価が落ちる傾向があります。

しかし、1 学期のまとめにも述べたとおり、最も重要な設問であると考えていることに変わりはありません。学習や行事で得る達成感、友達との関わりの中で感じる楽しさ、教職員との信頼関係を基盤に、目的を設定し、それを子どもたちにもしっかりと理解させるなど、それぞれの活動に工夫を加え、子どもたちが安心して楽しく充実した生活を送る環境作りに努めてまいります。子どもたちの声に耳を傾け、学習や生活の環境を整え、充実した学校生活を送るよう継続して支援していきます。

質問 「あなたは、相手のいやがること（たたく、けるなどの暴力もふくめて）をしたり言ったりしませんでしたか。」

質問 「誰かが他の人のいやがることをしたり言ったりしているのを見たことはありませんか。」

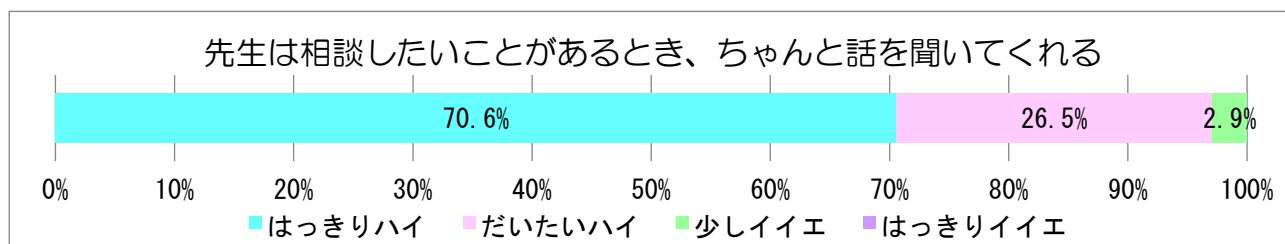
上の 2 つの質問の平均値を、この「学校にいじめや暴力がない」の値としました。



肯定的評価は 85.3%（1 学期比-1.1%）

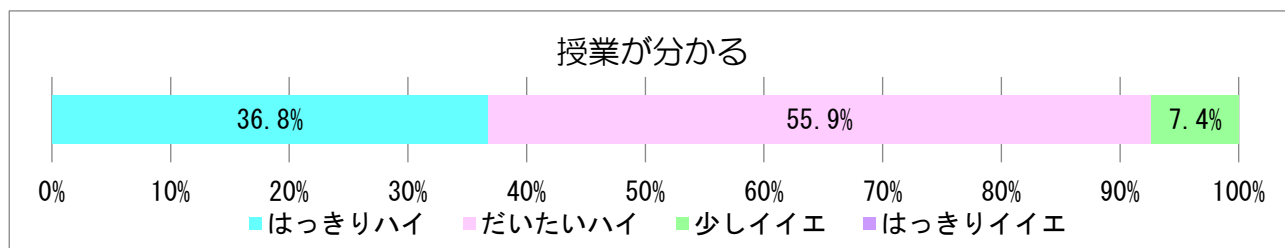
「しなかった」が 88.2%、「見たことはない」が 82.4%でした。「しなかった」が「見たことがない」をわずかですが上回ったということは、「周囲の子どもが“ダメだよ”と思ったことを、言った・やった本人はその自覚がなかったということがわずかだがあった。」ということです。やはり仲間から声をかけてもらうのが 1 番です。その場で『今のは良くないよ』と言い合えるクラスになることができるように、社会性を高めるためのあいさつ運動や話し合い活動、道徳の授業等を通して子どもたちの人権意識や規範意識を高めていきたいと考えます。

質問 「先生は困ったことや相談したいことがあるとき、ちゃんと話を聞いてくれますか。」



肯定的評価 97.1% (1学期-1.4%)、保護者の肯定的評価 94.0% (1学期比-4.4%) 児童、保護者ともに 90%を越える高い評価でした。この結果におごることなく、今後も誠実に熱意をもって子どもたちの成長を一番に考えた指導・支援に努めてまいります。

質問 「授業の内容は分かりますか。」

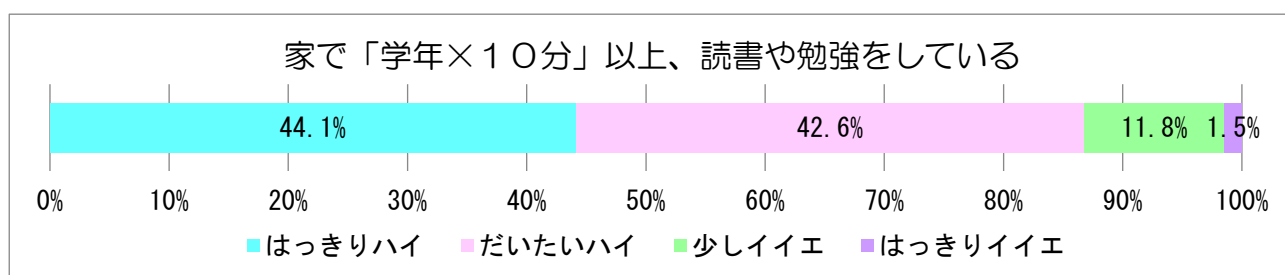


肯定的評価は 92.7% (1学期比-1.3%) ほとんどの児童が「授業が分かる」と感じています。しかし、100%ではありません。また、例えば、教科や単元によっても、この数字は変わります。これからも児童が主体的に学習に取り組めるように、課題を工夫したり、見通しや振り返りを取り入れたりするなどして、「学ぶ楽しさ」「分かる喜び」が実感できる授業づくりに今後も取り組んでいきます。

また、1学期同様、私たち教師も研修を深め、「個別」と「協働」、「デジタル」と「アナログ」をバランスよく組み合わせ、児童に最も適した学習指導を引き続き模索してまいります。



質問 「1日に家で、「10分×学年」以上、読書や勉強ができましたか。」



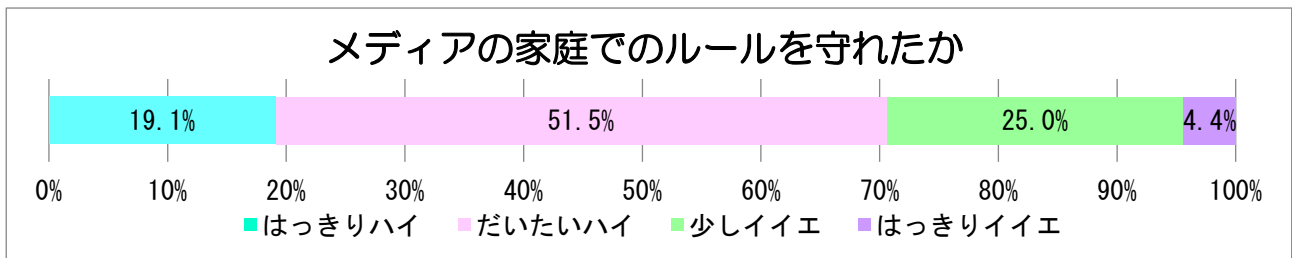
児童の肯定的評価は 86.7% (1学期比-2.6%)、保護者の肯定的評価は 82.0% (1学期比-1.0%)

多くの子どもたちが「学年×10分」の家庭学習時間を確保できているようです。家庭学習の内容を充実させるために、まずは、家庭学習で身につけてほしい力を教師が共有し、それに基づいて工夫した課題や学習方法などを、指導したり、宿題として出題したりしていきます。

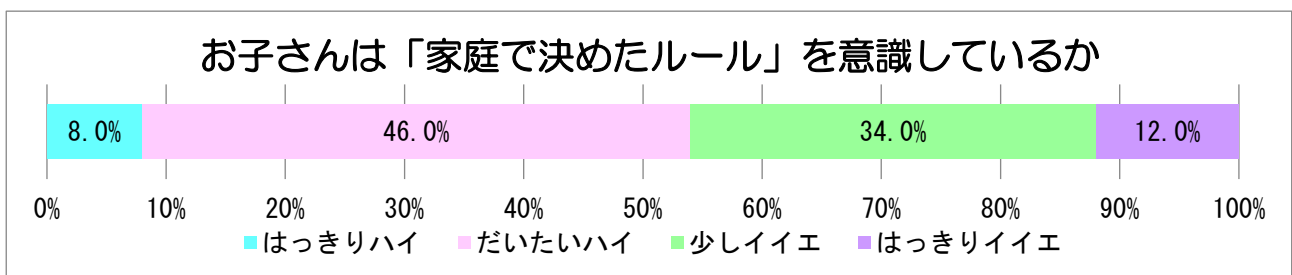
また、実態に合わせて家庭学習カードを各学年で用意したり、優れた取組をしている児童のノートなどを紹介したりしています。今後もこのような取組を続け、家庭学習の習慣化に取り組んでいきます。児童の将来(中学進学やさらにその先など)を見据えて、『「学年×10分」は下限である。』という意識をもたせるよう、今後も働きかけを継続していきます。

生活リズムの乱れなどの生活面だけでなく、視力の低下などの健康面についても、大きな問題になっているメディアとの関わりは、当校においても大きな問題です。

質問（児童） 「メディアを使うときは、家庭で決めたルールを守ることができましたか。」



質問（保護者） 「お子さんは、メディアについて、「家庭で決めたルール」を意識して生活していますか。」



児童の肯定的評価は 70.6%（1 学期比-10.9%）、保護者の肯定的評価は 54.0%（1 学期比-19.0%）

児童評価と保護者評価ともに 1 学期に比べて下がりました。親子の意識の差は 16.6%で、こちらも 1 学期より広がりました。（1 学期の差は 8.5%）

市が市内の子育て中の保護者に行ったアンケートによると、平日のメディアに触れている時間（ゲーム、スマホ、タブレット端末、P C、T V）が 2 時間以上の子は、下学年がおよそ 5 割、上学年が 7 割弱の割合です。また、自分専用の携帯電話やスマートフォン、タブレット端末（以下、スマホ等）を持っている子は、下学年で約 1 割、上学年で約 2 割強です。この皆さんに、利用のルールを決めているかを聞いたところ、下学年で 9 割、上学年で 8 割をとともに超える割合とのことでした。



当校と市の結果の両方を考え合わせると、**利用するときのルールは、「決めてあるか」ではなく、『守っているか』（大人の立場では『守らせているか』）の段階に入っている**と考えます。「うちの子、どうもなあ…」という方は決めたルールを、親子で再度確認し合うところから始めてみてください。

同アンケートによると、市内の小学生で、平日のメディア（ゲーム、スマホ、タブレット端末、P C、T V）に 2 時間以上触れている子は、下学年が約 5 割、上学年が 7 割弱の割合です。

ゲームやネット時間が増えるほど、健康状態が悪くなることは各種調査から明らかになっています。校内の視力検査の結果によると、春に比べて秋には視力が低下している児童が 20 名いました（去年は 10 名）。

また、その市のアンケートによると、スマホ等を持たせることに不安を感じている方は、下学年は約 8 割、上学年は約 7 割でした。

報道では、健康被害の他、児童生徒が S N S を通じた犯罪に巻き込まれたり、いじめ等にあったりしている等のニュースを目にします。多くの方がスマホ等を持たせることに不安を感じている一因だと思います。これらの被害を防ぐためにも、家庭で使用しているメディア機器には、**フィルタリング機能や使用制限をかけるアプリ等をぜひ活用して**いただきたいと思います。

これからの社会は、電子メディア機器を持っていることが当たり前の社会です。“使わない（持たない）、使わせない（持たせない）＝禁止する”という指導ではなく、健康も含め、“よりよく生活する＝生活や健康に役立たせる”という観点での教育・指導が必要です。**児童自身が自らの生活をコントロールできる力を育む取組**を考え、実践していくとともに、これからもメディアの利用についての考えを深めていく取組を保護者や地域の皆さんと一緒に進めていきたいと考えます。

2 保護者アンケートから

2学期末の保護者アンケートの結果です。

A：大変良い B：おおむね良い C：あまり良くない D：全然良くない
の4段階で回答いただきました。AとBの合計を肯定的評価とします。



(1) 肯定的評価が90%以上の項目 (9項目／14項目)

No	評価項目	肯定的評価%
1	お子さんは学校へ行くことを楽しみにしていますか。	92
2	お子さんは授業の内容を理解していると思いますか。	96
3	計算力や漢字の読み書きの力が付いてきたと思いますか。	96
5	お子さんにとって宿題は、適切だと思いますか。	94
6	家庭や地域、または学校で相手のことを考えた優しい言動を、友だちに対してしていますか。	90
11	学年だよりや学校だよりから、子どもたちの活動や学習の様子が分かりますか。	98
12	学校職員は、一人ひとりの子どもを大切に、温かく、ときに厳しく対応していると感じますか。	94
13	学校職員の保護者の皆様への対応について、誠意が感じられますか。	98
14	ボランティアや地域人財の活用等、保護者や地域の人々と連携、協力した教育を進めていると感じられますか。	100

「お子さんは学校へ行くことを楽しみにしていますか」の設問では92%（1学期比-6% 児童評価93%）、「家庭や地域、または学校で相手のことを考えた優しい言動を、友だちに対してしていますか」の設問では90%（1学期比-1% 児童評価のいじめに関する項目平均値85%）となりました。子どもと担任、子ども同士の温かな人間関係が築かれていて、学校や教室が子どもたちにとって安心できる居場所となっていると考えます。

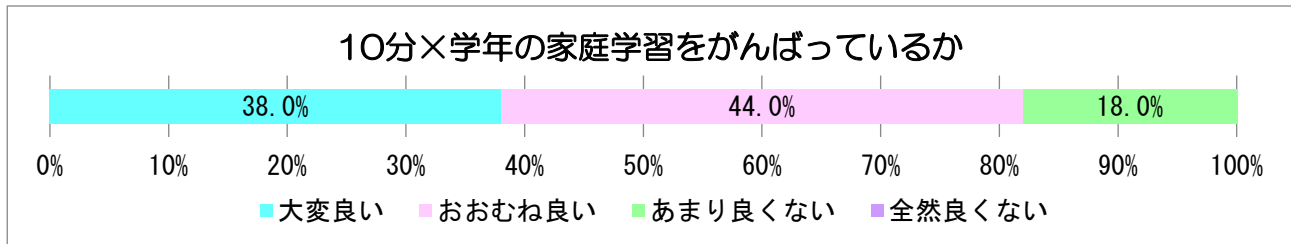
学習に関する2, 3, 5の設問のそれぞれの肯定的評価は96%（1学期比-1%）、96%（同+2%）、94%（同-4%）となりました。保護者の皆様から一定の評価をいただいた数値と考えています。これに慢心することなく、「子どもたちの成長」と「安全」を中心に置いて、これからも教育活動を展開させていきます。ご理解ご協力のほど、よろしくお願いします。

項目11～14の学校としての取組についての評価は、1学期同様、高い評価です。今後も、学年だよりや学校ホームページ、連絡帳などを通して、学校における子どもたちの学習や生活の様子を適宜お伝えすることで、保護者や地域の皆様との連携を深めてまいります。

(2) 肯定的評価が 90%未満の項目 (5 項目 / 14 項目)

《学力面での課題》

質問 「家庭学習(宿題と自主勉強)の目標を「10分×学年」と決め、学年ごとに取り組んでいます。それに向けてお子さんはがんばっていますか。」



肯定的評価 82% (1 学期比-1%) 児童アンケート 87%

◇ 1 学期とほぼ同じです。児童アンケートも 1 学期とほぼ変わりありませんでした。

『自分の家庭学習の軌跡を振り返り、自覚する』ことができるように、家庭学習カードを工夫したり、自学ノートを紹介したりしています。意識が少しずつ高まってきているように感じます。

子どもたちの多くは、心のどこかで“勉強しなくちゃ”と感じています。でも、“楽しい誘惑”がたくさんあります。「勉強しなくちゃの心」と「楽しい誘惑」の間で揺れ動いているのが普通の子どもです。そこで、この「勉強しなくちゃの心」を普段から優勢にさせることが必要です。家庭学習を習慣化する、そして、その積み重ねによって「できた」「分かった」を実感(自覚)できたことにより、子どもたちは自尊感情を高めます。逆に、以前の自分より今の自分が後退してしまったことを自覚した時は「頑張らなくちゃ」と向上心を持ちます。どちらにしろ、そのことを『自覚』することがスタートなのです。

3 学期は、学期自体は短いですが、家庭学習カードも自主学習(おもに自学ノートに記入)も行っています。ご家庭でも、ときどき家庭学習カードや自学ノートをご覧いただき、叱咤激励をお願いします。「ほめたり、叱ったり、励ましたり…」。叱られてばかりでは減入ります。ほめられてばかりではしらけます。子どもの表情を見ながら、「叱る、ほめる」をタイミングよく行い、**最後は『励まして』終わってください。**

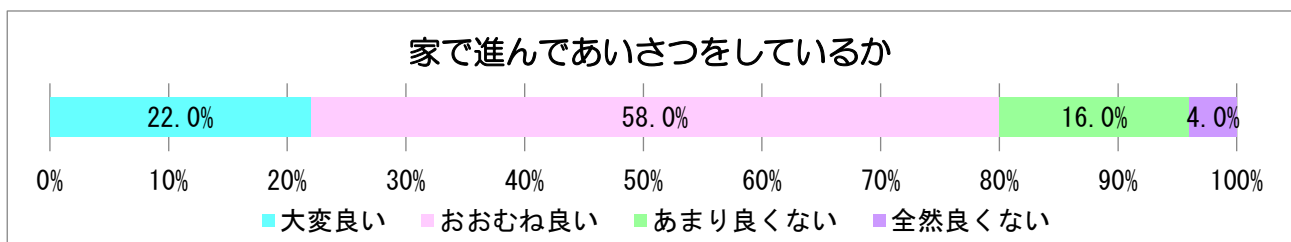
学校では、今まで同様、授業の充実を図り、授業から家庭学習へつなげる指導を、子どもの実態に合わせて丁寧に行っていきます。家庭では家庭学習の時間や場の確保などに配慮いただくとともに、激励をお願いします。

＜改善策＞

- ○ 家庭学習について、家庭学習カードや自学ノートの取組などにより、子どもの意識向上を図ります。また、家庭学習カードを工夫したり、授業内容を家庭学習につなげられるように丁寧に指導したりして、自分で考えて家庭学習ができる児童を増やしていきます
- ○ 今後も「糸魚川市授業改善チェックポイント」を活用し、意欲的に学習に取り組めるように、私たち教師も日々、授業の充実に努めていきます。

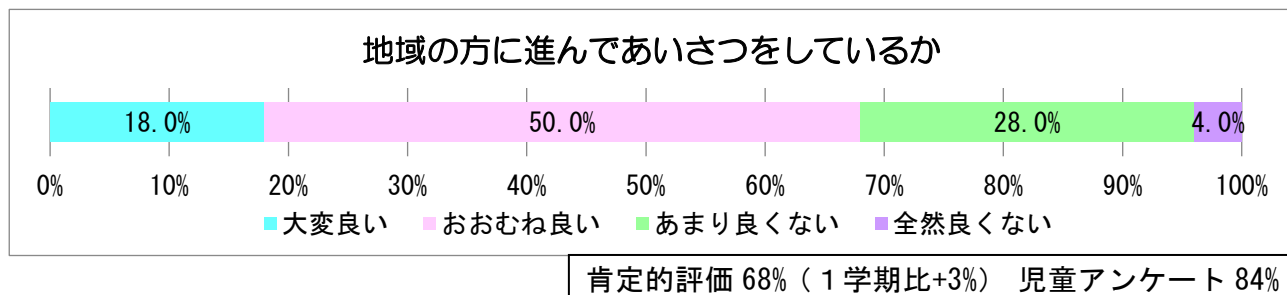
《生活面での課題》

質問 「お子さんは家で進んであいさつをしていますか。」



肯定的評価 80% (1 学期比-1%) 児童アンケート 72%

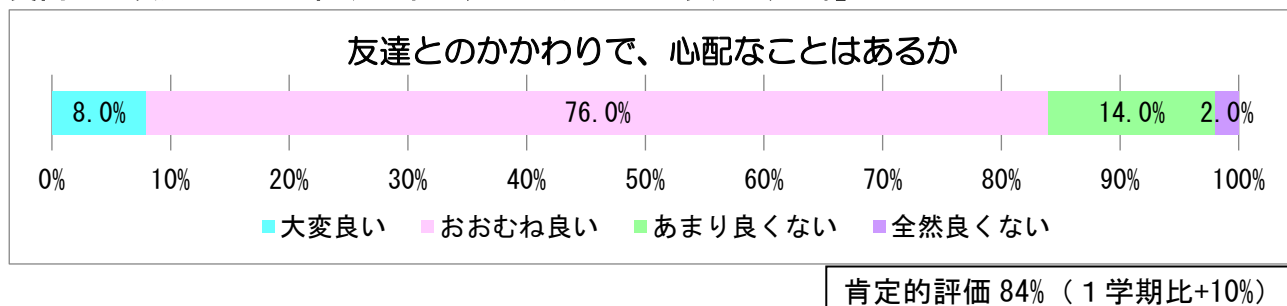
質問 「お子さんは、地域の方に進んであいさつをしていますか。」



◇地域でのあいさつについては“まだまだ”という状況のようです。しかし、1 学期にも紹介したように、地域でのあいさつ旗やあいさつ標語の取組により、数字には表れていませんが、**「最近、子どもたちのあいさつが良くなったね。」との声をいただくことが増えました。**

学校では、引き続き、あいさつ運動などを通して、明るいさわやかなあいさつを奨励し、指導していきます。家庭や地域でも互いにあいさつをかわし合い、「おはよう」、「行ってらっしゃい」などさわやかな声掛けをして、大人が率先してあいさつをしていきましょう。

質問 「友達とのかかわりの中で、心配なことはありますか。」



◇「心配なことはない」の肯定的な回答が1 学期より増えました。しかし、15%ほどの保護者の皆様は友達とのかかわりで心配なことがあると回答されています。自由記述を見ると、「友達とのコミュニケーション」への不安が1 番多く、「自分の子どもは〇〇の性格なので…」と、お子さんの性格が原因になるのではないかと心配されている記述が複数ありました。

ご家庭でお子さんに声をかけ、学校での様子を聞いたり、気に掛けていただいたりしているので、このようなご心配ができるのだと思います。今後も**学校での様子を気にかけ、聞いて、声掛けや働きかけをお願いします。学校からもどんどん連絡を取らせていただきます。**

学校では、下のような働きかけを年度当初から行ってまいりましたが、今後も継続して行い、子どもたちの自尊感情の高揚や社会性の育成に取り組んでいきます。

<改善策>

- 〇道徳授業の充実を図り、思いやりの心や差別をしない心の育成に努め、適切な人間関係の形成を図ります。
- 〇各学級で「クラス会議」の手法を用い、子ども同士がかかわりを持ちながら、課題を解決する学習活動を充実していきます。
- 〇各学級の帰りの会や授業の中で、子ども同士が認め合い、称賛し合う場をつくります。
- 〇子ども主体のいじめ見逃しゼロスクール運動を進めます。
- 〇教育相談週間を中心に子どもたちの悩みや心配ごとを聞き取っていきます。

★質問「メディアの家庭でのルールを意識しているか」は「(1) 児童アンケートから」を参照ください。